

※一部非公開

令和2年度
沖縄県立看護大学
特別選抜試験問題

出題の意図

本題材は「コミュニティ」が中心テーマである。地域包括ケアの時代には、地域にある暮らしのなかの課題に対して我が事として主体的に行動できる人材が求められている。それは、アドミッションポリシーの「1. 人の生命と健康に関心を持ち、看護職者として社会に貢献したいという意欲」、「2. 幅広く学問を学ぶ能力を持ち、主体的に学習する習慣を身につけている」ことに関連する。「コミュニティ」をキーワードとして、設問1では、文章読解力と要約力を問う。設問2では、基本的な計算を踏まえて、物事を構造的に思考する能力について問う。設問3では、自己の行動を振り返り、地域のために自己の能力を発揮させる主体性を問う。

【問題I】 次の文章を読んで以下の問いに答えなさい。

※非公開

出典：山崎亮著、コミュニティデザインの時代、中公新書、2016年、より本文の一部を抜粋し
改変

《設問 1》 筆者が文中で示している現代社会の課題とは何か、200 字以内で記述しなさい。

《設問 2》 本文にあるようにお客さん化した住民が増えると要望に対応するための行政職員が必要になる。以下のように仮定した場合、A 町と B 町の「お客さん化した住民」に対応する行政職員にかかる毎月の人件費は、いくらの差でどちらが高いか答えなさい。

A 町の人口は 7560 人で、「お客さん化した住民」と「主体的にまちに関わる住民」の比は 4 対 1 である。B 町の人口は 18320 人で、「お客さん化した住民」と「主体的にまちに関わる住民」の比は 3 対 7 である。「お客さん化した住民」250 人に対し、1 名の行政職員の配置が必要である。行政職員 1 名あたりの人件費は毎月 24 万円である。ただし、「お客さん化した住民」が 251 人の場合は 2 名の行政職員の配置が必要である。

《設問 3》 本文を踏まえて、あなたの「つながり」と「まちへの関わり」を振り返り、あなた自身が地域づくりのために工夫・改善できることを 600 字以内で記述しなさい。